

市ノ後の天神社

—木山—



背後に土塁の跡がみえる

木山上町の県道から、寿司店の西側路地を入ると正面に市ノ後天神社があります。

南北朝時代にあったとされる腰尾城(松丸城)は、現在の大字木山字市ノ後一帯にあったようで、「市ノ後」は「一ノ城」が訛ったと推定されています。

この腰尾城主を「益城町史」では前木山氏とし、後に室町時代に入部する木山惟久(紹宅)系の木山氏と区別しています。その前木山氏が城の北の守護神として祀ったのが、この天神といわれています。

天神社裏の竹林には、源五郎濠の跡が残っているのが、城の一角であつたことがうかがえます。

伝承では、この天神は木山の神々が集う所で、ここに通じる道をふさげば神霊の怒りに触れ、火災が起ると伝えられてきました。

また、魚の目の天神とも言われています。境内には地藏が合祀されています。8月24日の地藏祭りには、県道まで運んで、近在の人々にも参ってもらっていたそうです。

この天神には5つの宮座があり、初願立てが4月に行われ、願ほごきの9月25日には境内の土俵で子ども相撲があります。毎月、1日と15日に地区の人々が掃除をされており、12月15日の地区の座祭りでは、みかん投げが行われています。

益城町文化財保護委員会

俳句

早川宏次 選

赤剥げの根子岳豪雨禍無惨なり
下陳 城 陶子
蟬時雨今日も暑さを覚悟する
広崎 松原まゆみ
梅干しにやっと晴間の夜露打ち
惣領 阪口 基明
軒下に雀の親子雨宿り
惣領 阪口由美子
アイリスのいつもみごとな立たづまい
江津 高田美佐子
梅雨明けて列島猛暑で長い夏
惣領 新居 露子
梅雨空に恵みの雨はほどほどに
木山 増岡 伸禧

狂句

田上富岳 選

飲ますけん 朝昼晩じゃ程々に 惣領 阪口 基明
飲ますけん 返納された免許証 宮園 永瀬 美波
飲ますけん 焼酎なつと贈つとけ 寺迫 左 喜樹
飲ますけん しゃべり出さすときりがにゃあ 宮園 井藤 吉郎
飲ますけん 足の纏れは酷どなった 下陳 山田 凡骨
足取り軽く 今日父ちゃんボーナス日 惣領 小森英美子
足取り軽く 打ち上げ台に御執心 木山 増岡 酔粹
足取り軽く 今日検査も全てパス 広崎 松原まゆみ
足取り軽く よほど良かこつ有つたらう 宮園 岩本よころく
足取り軽く 少し威張れる給料日 島田 堀川 骨鶏

狂句次号の課題 「スッキリ」「耳をすまして」

投稿は役場広報係まで。

投稿締切日は毎月15日です(当日必着)。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。